

「兵庫型教科担任制」の取組を生かす新たなステップ ... 小中学校双方向からの連携促進

「小・中連携推進専門員」を教育事務所に配置し、「兵庫型教科担任制」の教育効果を生かしつつ、県下の多様な小中学校の連携を支援し、児童生徒の発達や学びの連続性を確保する教育の一層の充実を図ります。

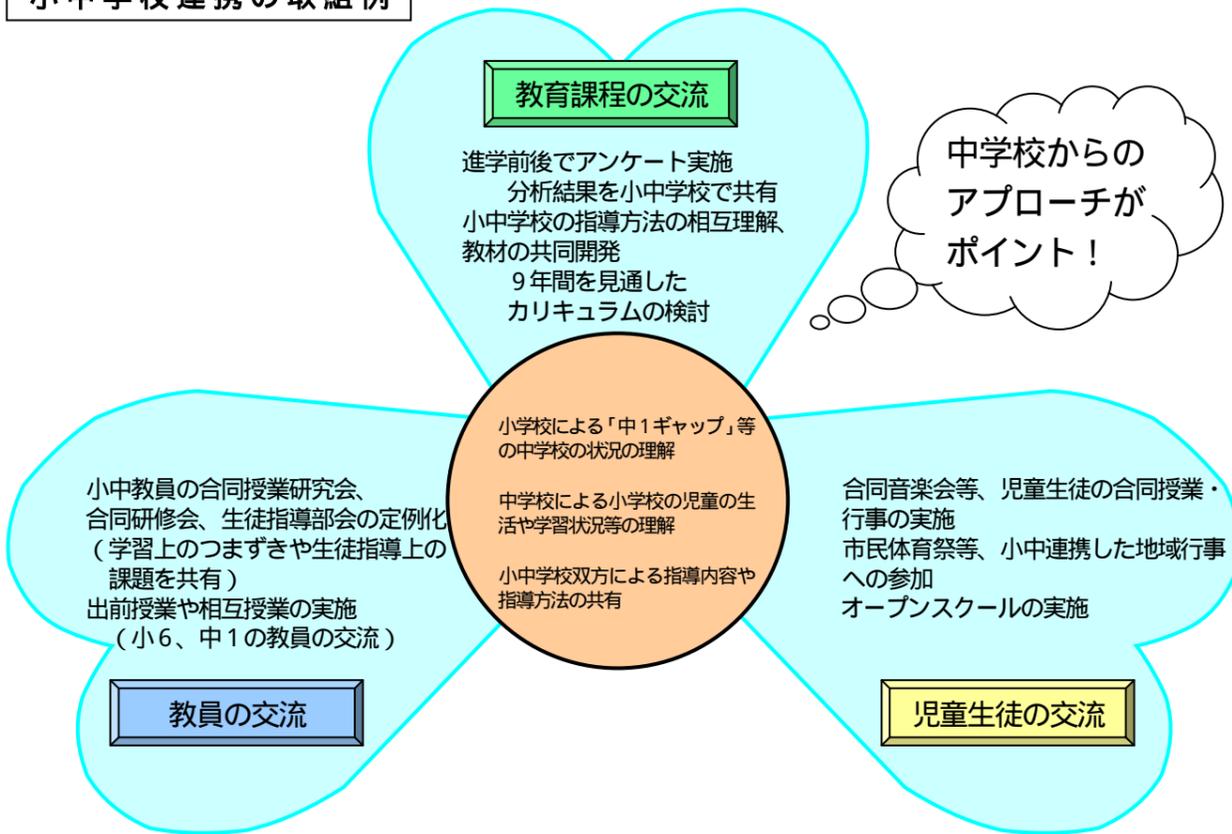
小・中連携推進専門員の活動

・職務内容

- (1) 小中学校双方向からの連携促進の支援
  - ・ 効果的な取組や課題の改善策等の情報収集
  - ・ 小中学校教員のきめ細かな情報共有など連携促進に関するアドバイス
  - ・ 中学校区ブロック会議（小中連絡協議会等）に対する情報提供、アドバイス
- (2) 「兵庫型教科担任制」の教育効果の普及啓発
  - ・ 効果的な取組事例や課題の改善策などの情報収集
  - ・ 円滑な導入、推進に向けてのアドバイス
  - ・ 中学校進学後の教育効果に関する検証
- (3) 小中学校連携に関する市町組合教育委員会への支援
  - ・ 小中学校連携に関する啓発資料作成・配布
  - ・ 効果的な取組事例や課題の改善策などの情報収集
  - ・ 市町連絡協議会(校長会、生徒指導担当者会等)における情報提供、アドバイス



小中学校連携の取組例



# 小学校における新たな指導システム「兵庫型教科担任制」

小中学校9年間を見据えた  
子どもたちにとってよりやさしいシステムの創造

人間関係や学習経験の広がりが  
発達や学びのつながり

兵庫型教科担任制の導入・推進にあたって

近年、国の義務教育に係る諸制度等の検討において、子どもたちの発達段階を踏まえた教育の改善、「中1ギャップ」など学校間の連携や接続の改善の観点から、小学校高学年における教科担任制の導入や小中学校双方向からの連携の必要性が指摘されています。

こうした背景を踏まえ、本県では、平成21年度から、小学校高学年において「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせ、複数の教員が児童の指導に関わる「兵庫型教科担任制」を推進してきました。

過去2年間の実践研究の結果から、「兵庫型教科担任制」は、義務教育9年間を見通して、教員の組織的・協力的な指導体制を促進させるとともに、教員と人間関係や学習経験の広がりによって子どもたちを成長させるなどの教育効果が報告されています。

平成23年度は、これまでの実践研究の結果をもとに、実施教科の弾力化、加配教員の配置基準の改善など条件整備を図るとともに、兵庫型教科担任制の教育効果や運用上の工夫についてリーフレットや教員研修等で普及啓発を進めています。

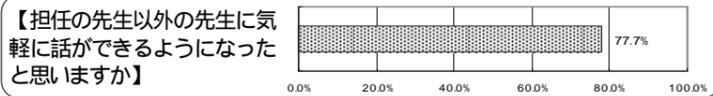
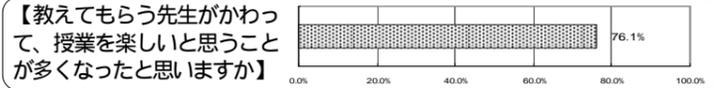
学校においては、兵庫型教科担任制の教育効果を校内で共通理解し、学級担任制のよさを生かしつつ学校の実情に応じた創意工夫のもと、子どもたちの学びや発達において、よりやさしいシステムとして確立されることを期待します。

また「兵庫型教科担任制」の取組を生かす新たなステップとして「小・中連携推進専門員」を教育事務所に配置し、中学校において小学校の学習指導や生徒指導の理解の深化を図るなど、小中連携の取組を促進します。

# 期待される教育効果

## 1 教員との人間関係や学習経験の広がりによる子どもたちの成長

子どもたちが学級担任との信頼関係を基盤に、複数の教員の指導に触れ、人間関係の拡充や多様な経験を通して、自分への自信を深めたり、責任の自覚や自立心を高めたりするなど、豊かな人間性や社会性の育成が期待できます。



### 【教員担任制への児童の意見】

先生の得意とする分野の授業なので分かりやすかった。多くの先生と交流でき、思いや考えが分かった。中学校のようなことを小学校において経験できるからよかった。

### 【少人数授業への児童の意見】

それぞれのペースに応じて勉強を教えることができた。緊張せずに質問でき、先生からも細かくアドバイスがもらえた。話し合いがしやすいし、いつもより発表ができるようになった。

### 【複数の教員と関わることへの児童の意見】

自分に合う先生が見つかり、気軽に話ができるようになった。いろいろな先生に相談できるので、気持ちが楽になった。校内で出会うと、声を掛けられたり励ましてもらえたりするようになった。



## 2 教員の多面的な児童理解に基づく、組織的・協力的な指導の充実

子どもたちの成長を支えるため、学習・生活指導において、学級担任を中心として、他の学級担任や担任外教員等との連携による組織的・協力的な指導体制の確立が期待できます。

### 【校内体制に関する教職員の意見】

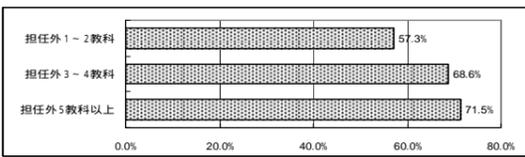
児童に関する情報交換や指導法の研究が活発化した。教員のチーム意識が高まり、役割分担しながら協力的な対応ができるようになった。多くの教員がかわることで、児童のよさを認め合う場面が多くなった。児童の変化に気付くやすくなり、問題の未然防止・早期対応ができた。



## 3 発達や学びの連続性を確保するための小中学校の円滑な接続

児童生徒の発達や学びの連続性を確保するため、小中連携を図ることが大切であり、兵庫型教科担任制の取組を進め、小中双方向からの連携を促進することで、いわゆる「中1ギャップ」等の解消が期待できます。

【「兵庫型教科担任制」実施小学校の進学先の中学校1年生の意見】小学校の担任以外の先生に教えてもらったことが、中学校の学習や生活に慣れることに役立ちましたか？



小学校6年生の時に3教科以上で担任以外の教員に指導された生徒の方が、1~2教科指導された生徒に比べて、「中学校の学習や生活に慣れるのに役立った」と回答した割合が高い。



グラフは、平成22年度実施状況調査：児童質問紙回答結果より肯定的な回答の割合を示したものです。

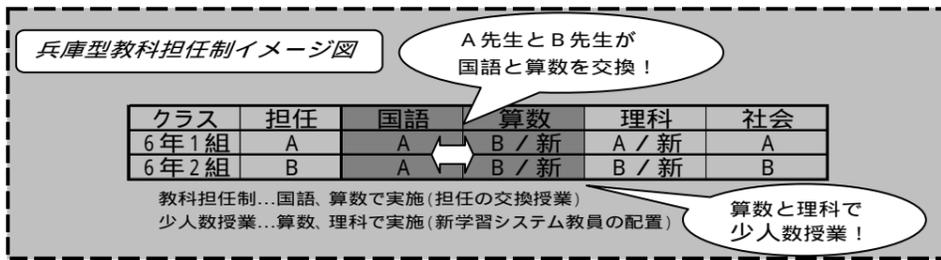
# 兵庫型教科担任制ってどんなシステム？

学級担任制のよさを生かしつつ、「教科担任制」と「少人数授業」を組み合わせることで複数の教員が指導します。

【教科担任制】国語、算数、理科、社会の中から2教科以上を選択し、担任の交換授業を原則として実施

【少人数授業】算数、理科で実施  
ただし学校の実情により、国語を含む上記3教科の中から最低1教科以上を選択することも可能

学年全体で、子どもの学習状況や生活状況を共有し、組織的・協力的な指導を効果的に推進することができます。



担任の授業交換例<基本形>

2学級の場合...国語と算数の交換、又は社会と理科の交換等

3学級の場合...社会、理科、体育の交換、又は国語、算数、理科・家庭の交換等

## 交換授業の運用が難しい学校の実施例

学校の実情に応じて、弾力的に交換授業を行うこともできます。

### 【交換授業による教科担任制 例】

下の表は交換授業について理解いただくために、少人数授業を省いて表記しています。

3学級(同一学年)

クラス	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
例1 5年1組(A)	A	A	B	C	外1	外2	C	A	A	A
5年2組(B)	A	B	C	外1	外2	C	B	B	B	B
5年3組(C)	A	C	B	C	外1	外2	C	C	C	C

教科担任制...国語、算数、理科、家庭で実施(担任の交換授業)、音楽、図工は担任外教員で実施

3学級(同一学年) 理科で専科指導をする場合

クラス	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
例2 5年1組(A)	A	A	A	外2	B	外1	B	C	A	A
5年2組(B)	B	A	B	外2	B	外1	B	C	B	B
5年3組(C)	C	A	C	外2	B	外1	B	C	C	C

教科担任制...社会、音楽、家庭、体育で実施(担任の交換授業)、理科、図工は担任外教員で実施

3学級(異学年)

クラス	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
例3 5年1組(A)	A	A	A	B	外1	C	A	A	A	A
5年2組(B)	B	A	B	B	外1	C	B	B	B	B
6年1組(C)	C	外	C	C	外1	C	外	C	C	C

5年生の教科担任制...社会、理科、図工で実施(担任の交換授業)、音楽は担任外教員で実施

6年生の教科担任制...図工で実施(担任の交換授業のみならず)、社会、音楽、家庭は担任外教員で実施

クラス	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
例4 5年1組(A)	A	A	A	B	外1	外2	A	A	A	A
5年2組(B)	B	A	B	B	外1	外2	B	B	B	B
5年3組(C)	C	C	C	D	外1	外2	C	E	C	C
5年4組(D)	D	C	D	D	外1	外2	D	E	D	D
5年5組(E)	E	外	E	D	外1	外2	E	E	E	E

1学年奇数学級(5・7学級など)

2クラスと3クラスのユニットに分割して教科担任制を実施

クラス	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
例5 6年1組(A)	A	A	A	B	外1	外2	A	A	A	A
6年2組(B)	B	A	B	B	外1	外2	B	B	B	B
6年3組(C)	C	C	C	D	外1	外2	C	C	C	C
6年4組(D)	D	C	D	D	外1	外2	D	D	D	D
6年5組(E)	E	外	E	E	外1	外2	E	E	E	E

### 例1: 3学級(同一学年)

(音楽・図工での専科指導)  
複数の教科を組み合わせ、交換授業の授業時数を揃える。

### 例2: 3学級(同一学年)

(理科・図工での専科指導)  
国語、算数、理科、社会で専科指導を行っている場合、他の教科も加えて交換授業をすることも可。

### 例3: 3学級(異学年)

例4: 5学級を分割(2学級と3学級)  
例5: 5学級を分割(2学級 2学級 1学級)  
5・6年合計3学級や、1学年が奇数学級(5・7学級など)の場合、2学級単位に分割して交換授業を行い、残りの1学級は、いずれかの教科で専科指導を行い、その指導時数と同程度を、他の学級(学年)で指導することもできます。

# 運用上の課題と工夫例

Q1 教科担任制を段階的に導入するため、どのような工夫ができますか。

年度当初の一定期間、学級担任と児童との信頼関係や児童相互の人間関係をはぐむため学級担任制でスタートし、その後に教科担任制を行うスロースタートや、自然学校や運動会練習等の行事において、教科担任制から学級担任制に戻すなど、学校の実情に応じた弾力的な運用が考えられます。

Q2 時間割を編成する場合、どのようなことに留意が必要ですか。

行事などで教科担任制の授業が難しい場合や、授業の進度を調整する場合などに備えて、学級担任制に戻せるように担任の交換授業はできるだけ同一時間に設定しておくことが重要です。  
また、児童の朝の様子を確認するために、1時間目については学級担任が指導する教科とすることが考えられます。

Q3 第5学年、第6学年とも単学級です。教科担任制を推進するメリットとしてどのようなことが挙げられますか。

6年間学級集団が変わらない単学級において複数の教員が児童にかかわることで、児童の人間関係や学習経験の広がりが期待できます。  
また、2学年にまたがって教科を担当することにより、教科の系統性を意識した教材研究や学習指導の充実を図る教育効果も報告されています。

Q4 学級担任が担当していない授業の学習内容や家庭学習等を確認する上で、どのような工夫が行われていますか。

学級担任と教科担任の連携のもと、児童の係活動として教科係が学習内容や家庭学習等について連絡黒板に記入するなど、教員も児童にも確認しやすい体制づくりが行われています。  
また、学習タイムを学級担任が指導する関係上、漢字や計算などの家庭学習については学級担任が点検・評価するなど、学級担任と教科担任の役割分担を明確にしておくことも重要です。

Q5 児童の学習状況や生活指導上の情報交換について、どのような工夫がなされていますか。

職員朝会の効率化を図り、学年打ち合わせの時間を確保したり、学年会を定例化したりするなどの工夫が行われています。  
また、児童の授業中の様子等について、口頭またはメモで速やかに伝えたり、個人カルテ等を作成し情報を共有したりするなどの取組が行われています。  
さらに、各教員の指導場所や指導内容等をまとめた一覧表を職員室や教室に掲示することにより、児童にとっても教員にとってもそれぞれの居場所が確認でき、迅速な情報交換を図る工夫が行われています。

H21・22年度実践研究『最終まとめ』に基づいてまとめられています。

